

# 香川県教職員生活協同組合（教生協）コーナー

## GLADIS グラデイス高松ザ・タワー 建物内モデルルーム公開中〈ご来場予約受付中〉



国の特別名勝に指定されている文化財庭園「栗林公園」徒歩8分(約630m) / 四国の迎賓口「高松」の中心  
中央通りに面した一画 / 「市立亀阜小学校」「市立紫雲中学校」が校区  
歴史と伝統のある教育施設が徒歩圏内  
〔国立香川大学教育学部附属高松小学校〕徒歩10分(約750m)

### 年齢の制限はなくなりました!

香川県職員の福利厚生制度  
香川県職員の団体扱自動車保険なら...  
団体扱契約は一般契約に比べて

# 約14.5% 割安!

10% 適用 × 約5% 割安

●ご加入時に現金不要! 後払いは給付引当金です。  
●同居のご家族のお車も団体扱でご契約OK!

## 手続きはとっても簡単! 代理店を変更する必要なし!

一度お電話を!

安いネット保険で大丈夫?  
事故の時に違いがでます!

### 退職後も継続可能で安心! 家族の保険も団体扱いで更にお得!

## 香川県教職員生協です!

# 087-831-5870

担当 尾崎まで



香川県教職員連盟機関誌  
発行所: 香川県教職員連盟  
発行者: 高木 俊彦  
〒760-0004  
高松市西宝町二丁目6番40号  
香川県教育会館 602号  
TEL(087)835-2721  
FAX(087)835-2723

毎月10日発行 定価1部50円  
(年間1,000円 送料とも)  
会員の購読費は会費の中に含む



香教連は、結成四十八年を迎えた、子供中心の教育を目指し、健全なる批判力を持つ、県内最大の教職員団体です。

## 県教委と総括交渉を行う

六月三日(金)一五時より県庁北館四階402号室にて、香川県教育委員会と香教連による総括交渉が行われた。

香教連の参加者は高木委員長、黒川事務局長(高松・牟礼南小)、相原人対部長(丸亀・富熊小)の三名である。重点要望内容は、以下の七項目。

- 一 小・中学校における少人数学級編制の一層の充実に向けて、計画的な教員の配置・拡充を行うとともに、学級編制標準の引き下げについて国や関係機関に働きかけること。
- 二 小学校高学年においてより充実した教育活動を行うために、教科担任制が円滑に実施されるよう、計画的な教員配置・拡充を行うこと。
- 三 ICTを活用した教育の充実に向けて、学校におけるICT活用支援人材の配置を推進すること。
- 四 地方公務員の定年引き上げに当たっては、教員の勤務の特殊性を鑑み、管理職への「役職定年制」を適応しないこと。
- 五 配慮の必要な児童生徒への個に応じた指導の充実に向けて、通級指導教室の増設および中学校へのさらなる拡充を図るとともに、通級指導担当の増配置を推進すること。
- 六 学校事務の負担を軽減し、教職員が児童生徒と向き合う時間を確保するため、ICTによる業務の効率化を図るとともに、指導要録の電子化等を含め、県下で共通化された業務に取り組むことができるよう、市町教育委員会と連携して早急に環境整備を図ること。
- 七 教職員の超過勤務の縮減に向けて、学校運営改革と意識改革が早急に実現するために、各学校で具体的な業務の改善、意識改革が図られるよう、市町教育委員会や所属長に積極的に働きかけること。

最後に、工代教育委員長より、「働き方改革に関しては、昨年も申し上げたように、一番重要で解決に向けて取り組まなければならない課題である。さらに、ここ数年教育界を取り巻く環境は目まぐるしい変化の波に飲み込まれているように思う。特にICTに関する分野は、若い先生方を中心としたプロジェクトを考えるなど、思い切った方策が必要な時期が来ているのかもしれない。これからも、たくさんさんの情報やご意見をお聞かせ願いたい。」と締めくくった。



## 県人事委員会への要望

六月八日(水)十三時四十分より香川県庁人事委員会にて、令和四年度教職員の勤務条件・給与等に関する要望を行った。

香教連からは、高木委員長と木下執行委員(高松 新番丁小)の二名が参加した。関谷人事委員会委員長と高木香教連委員長の手交の写真を撮影の後、以下のことについて要望をした。

- 一 教育条件の整備について
- (一) 教職員の常態的な長時間勤務の実態を鑑み、教職員の職務の多様化と勤務形態の特殊性を踏まえて、教職員の多忙感の解消に取り組むよう、関係当局に働きかけること。
- (二) 教職員の勤務の特殊性に鑑み、介護休暇期間を最大一年間に

## 日々是好日

六月の教育新聞に、義務教育未修了者が約九〇万人に上ると記載があった。そのうち、最終卒業学校が小学校が八〇万五千人近くということだ。そのうち九六%が七〇代以上である。何らかの事情で学校に通わなかった、もしくは通えなかった人々であると推測できる。文科省は夜間中学設置に向けた取り組みを加速させるとのこと。香川でも夜間中学が四月に開校スタートしている。読み書き、計算ができずに苦しい思いをしてきた高齢の方がもう一度学び直したいと頑張っている。今から二十九年前の映画「学校」(山田洋次監督)を思い出す。登場人物のイノさん(田中邦衛)がまさにそうであった。不登校問題、在日外国人、発達障害など今も変わらない問題で教師は頭を悩ませていることに驚く。夜間中学校を中心に挫折や苦境から立ち上がる人々を描いた作品である。是非一度夏休みに観て欲しい。

## 特別でない特別支援教育を

「子どもはルールよりもラポールに従う」  
先生にとって不適切な行動が見られた時、様々なルールや強い言い聞かせでコントロールしようとする場面は少なくないのではないのでしょうか。「指示に従わない」「指示が入らない」ことを子どもの責任にしているのではないのでしょうか。強引な指導やその子のつまずきの背景を考慮しない支援になっていないでしょうか。  
理屈で理解して自分をコントロールできる子どもは、そんな行動をしません。大切なのは「先生の話は聞く価値がある」というラポール(信頼関係)作りです。  
即効性はありませんが「自分のことをわかってくれ。あの人の言うことはよく分かる。話を聞いてくれる。一緒に遊んでくれる。先生の話が好き。・・・」まずは、こんな先生になることが大切かと。